

■効果の見える治水事業

香川県 新川(木田郡三木町)の治水事業

『新川広域河川改修事業(三木工区)』

香川県土木部河川砂防課長 尼子 進

あまこ すずむ



新川は、その源を香川県木田郡三木町高仙山に発し、吉田川、春日川等の支川を合わせ、高松市市街地東部の木太町、屋島西町において瀬戸内海に注ぐ。幹川流路延長約18.7km、流域面積約131.9km²の二級河川です。その流域は、香川県高松市、木田郡三木町、さぬき市の2市1町にまたがり、同地方における社会・経済の基盤をなしています。

新川水系の過去の主な災害は、昭和47年9月の台風20号および豪雨による浸水家屋1,880戸、浸水面積約425haや、昭和62年10月の台風19号による浸水家屋4,831戸、浸水面積約703.4haがあり、近年においては、平成16年10月の台風23号で、特に支川春日川を中心に浸水家屋6,677戸、浸水面積693haと戦後最大となる甚大な被害を受けました。

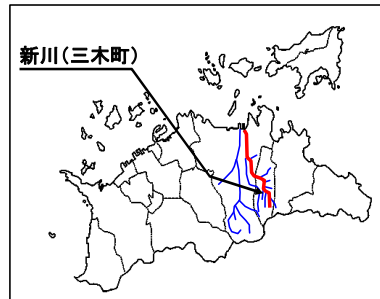
本河川においては、昭和38年度より中小河川改修事業として河口から築堤、掘削等を実施してきており、昭和62年10月洪水による未曾有の大被害を受け、新川河川激甚災害対策特別緊急事業を実施する等、現在に至っています。

事業実施により、これまで河口～高松琴平電鉄長尾線鉄橋付近までの約11.3kmの区間の整備が完了しています。しかしながら、上流の未整備区間において、平成16年10月洪水などで浸水被害が発生しており、再度災害防止を図るため、高松琴平電鉄長尾線鉄橋上流から約3.6kmの平松橋上流までの区間を掘削、河道拡幅、護岸等による河川改修を実施していきます。平成22年度は、工事に先立ち、測量および設計を実施しており、あわせて計画では、戦後最大流量を記録した平成16年10月洪水流量を安全に流下させることを目標とした新川水系河川整備計画を策定中です。また、当該区間は、水利目的の固定堰が数多く存在し、流下阻害の要因になっていることから、統廃合も含め可動堰化に努めます。

河川改修にあたっては、環境に配慮した護岸で整備するとともに、河床は滞筋を確保し変化をもたせ、自然の回復力によって動植物の生息・生育環境の復元を図るよう努めています。

今後も環境に配慮しつつ、浸水被害を早期に軽減できるよう、河川改修に取り組み、災害に強い快適な郷土を目指します。

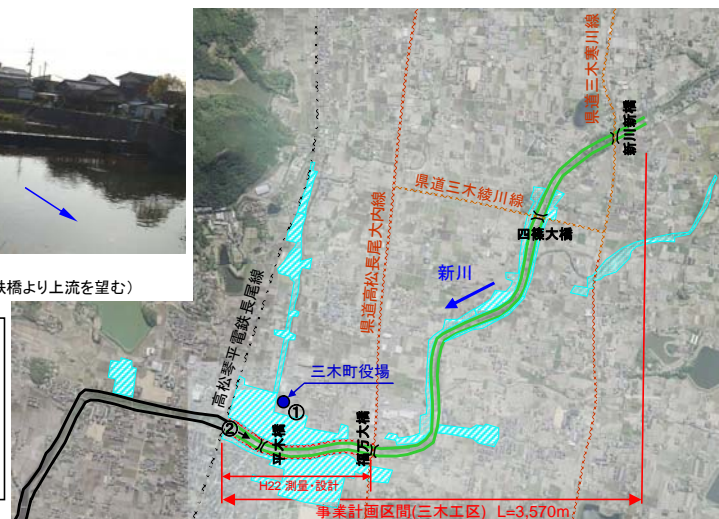
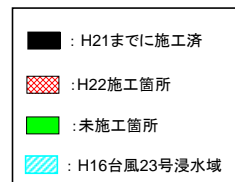
位置図



①平成16年10月台風23号出水による被災状況 (三木町役場付近)



②未整備区間の状況 (高松琴平電鉄長尾線鉄橋より上流を望む)



『人々が助け合う安全、安心なまちづくり』



三木町長 石原 収

三木町は、香川県高松市の東側に位置し、東はさぬき市、南は旧塩江町と徳島県鼎町、北は旧牟礼町とその境を接しており、南北に細長く、総面積75.78km²、人口約2万8千人の町であります。

緑豊かな自然と清らかな河川に恵まれ、温暖な気候風土は人情味あふれる町民性と強い郷土愛を育み、「人と自然にやさしいまち・三木」を基本理念として、緑豊かな自然を守り育て、自然と共生しながら町民だれもが安心して暮らせる活気に満ちたまちづくりを進めています。

町内各地域で受け継がれてきた獅子舞を披露する『獅子舞フェスタ』も今年で19回目を数え、郷土の伝統文化を守る一方で、先端技術である希少糖の研究所を小養地区で誘致するなど、地域の活性化に努めています。

また、安全・安心なまちづくりとして、防災面を特に重要と考えております。町内には中央部を新川、東部を鴨部川、西側に吉田川が流れ、その沿線に平坦な低地が広がり、豊かな農地や住宅地が形成されており、特に新川は人と自然とが象徴されます。普段は穏やかな流れですが、台風時にはその姿を一変させ、昭和62年(台風19号)と平成16年(台風23号)には町内に甚大な被害をもたらしました。そのため、高松市境から上流に1.9kmが新川河川激甚災害対策特別緊急事業により改修され、その上流に関しては現在県の方で策定中であります河川整備計画をもとに早急な改修が望まれます。

三木町では、台風災害の教訓により、今後の備えとして、洪水ハザードマップ及び防災ガイドブックを作成して防災意識の高揚と素早い対処方法等を広く周知するとともに、地域ぐるみで協力し助け合う『自主防災組織』を結成して防災訓練を実施しております。

今後とも、災害時の被害を最小限に抑えられるよう、地域住民との連携をもとにその活動を充実させ、「安心して暮らせるまちづくり」に努めてまいりたいと考えております。



平成16年台風23号による護岸崩壊状況



防災訓練状況